

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870700147
事業所名	グループホーム銀河
(ユニット名)	第一 ユニット 3F
記入者(管理者)	
氏名	西村 達行
自己評価作成日	平成29年 9月 1日

<p>【事業所理念】 ①入居者、個々の残存能力を生かしその人らしい生活ができるように支援する。 ②入居者が自信と生き甲斐を持って生活出来るよう計画を立てる。 ③一人一人を尊重し楽しい共同生活を送れるよう家庭としての環境を整える。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 新たな地域との取り組みにチャレンジ中です。今年度より構成員の方々の理解を得て同意の元、運営推進会議を星城と銀河合同で開催している。地域コミュニティを広げ地域との連携を築いていきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 ビルの3階と5階をグループホームに改装している。開設から17年経っているが、整理整頓が行き届き清潔感が漂う事業所である。共用スペースの使い方を工夫し、職員と利用者が共同し日常生活を送っている。管理者と職員の関係性がとてもよく信頼関係をしっかりさせ、同じ目標を持って利用者の支援に取り組んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の希望に寄り添って対応出来ている。	◎	/	◎	利用者の思いや希望を日常生活の中で聞き出している。外出希望や買い物と一緒にいきたいという希望を、家族やボランティア等の協力を得ながら叶えている。買い物支援についてもケアプランに盛り込んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	声かけを行ったり、家族にも話を聞きながら検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	状態報告はするが、思いについては話ができない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録やケアプランに記録共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	声かけにて本人の意見を聞き、対応を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人の状態報告の際には、家での時の事等を話している。	/	/	◎	在宅時の暮らし方を、入居時に家族や介護支援専門員等から聞き取っている。短期記憶障害があったり、入居直後で聞き取りが難しい利用者もいるため、日頃の利用者の言葉を傾聴するなどし把握するほか、家族の面会時には生活リズムを聞くことなどに努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	記録に残し、把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	時間帯やその日の状態を個別に把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	要因を考え、カンファレンスで話をしながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で情報共有が出来ている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その時の対応が出来ている。	/	/	◎	介護支援専門員を中心としてアセスメントを行っている。利用者毎の担当職員を決め情報収集を行い、本人の気持ちや家族の意向も確認している。アセスメントシートには医療や食事、排泄、入浴、整容等の調査項目があり、利用者のことがよくわかるようになっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアカンファレンス等で話を検討出来ている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	明らかに出来るよう、話し合いが出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアカンファレンスにて話し合いをしている。	/	/	/	ケアカンファレンスでの話し合いを行っているが、利用者の真のニーズを汲みとることができるのか疑問に思うことがあると管理者は述べている。ICF(国際生活機能分類)を元にアセスメントを行い、課題の優先順位を決定している。家族の意向は要介護認定更新時に直接もしくは電話で確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	情報を共有し会議等で話し合った上、作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対しても暮らし方が出来ていると思う。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域の行事に出来るだけ参加している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアカンファレンスで話し合い、共有できている。	/	/	◎	介護計画で立案された目標とサービス内容を経過記録に印刷し、記録する際に振り返りで確認できるように工夫されている。介護計画の日課票に沿った生活支援が行われている。月に1回ケアカンファレンスを実施し変更点等がないか確認している。職員の気づきなどを記録し目標に添った記入方法にしており、日中と夜間の利用者の言葉や表情、支援内容なども記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録をもとにして、支援につなげるよう努めている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	常時、介護記録に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	記録におとして、支援につなげている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて、見直しを行う事が出来ている。	/	/	◎	長期目標を1年、短期目標を6か月で設定し、モニタリング及び評価を毎月実施している。法人内で見直しを6か月にするよう現在統一中である。モニタリング表はサービス内容の評価を3段階で行い、達成度や本人・家族満足度、特記事項が記載できるようになっている。状態に変化がない場合でも、各担当者が月に1回評価しケアカンファレンスで報告を行い、状況の変化があればその都度見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い、確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	カンファレンスで話し、現状に即したものを作るように努めている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ケアカンファレンス、業務カンファレンスで話し合っている。	/	/	◎	月1回ケアカンファレンスを行っている。勤務中の職員を中心に家族の都合が合えば参加していただくこともある。また、市や県に報告するような事故があった場合、3日以内に事業所内で会議を行い対策を考へており、結果を全職員に回覧し周知徹底している。回覧は、職員が確認したことが確実に分かるように日付けと押印を行っている。参加できない職員には、管理者が会議の内容を説明し、伝わっているかどうかは常時確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	1人1人意見が言えるよう声かけをし、言いやすいようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	配慮出来る限り行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録をして全職員が周知できるようにしている。尚、急ぎの件に関しては、口頭で周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	記録を残している。	/	/	◎	職員は、日誌や申し送りノート、ケアプラン、ヒヤリハット、研修会記録、防災報告書などを閲覧し、確認した日付の記入と押印を行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	業務日誌、介護記録をしっかり記録している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	人数少なく出来ない時が多い。	/	/	/	買い物の希望等は、笑いヨガでも来てもらっているボランティアなどにも協力していただいている。日々の生活では衣類やおやつの種類を選んでもらうようにはしているが、「どれでもいいよ。全部おいしそう。」と言われることが多く、職員が好みを考えて選ぶこともある。毎朝新聞を読む利用者がおられ、地元のニュースを話題にして話が弾むこともある。御詠歌と一緒に言うと穏やかになる利用者もあり、家族などから趣味を聞き出し、利用者の笑顔や喜びを引き出す支援を行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	利用者の重度化により、難しく職員が決める事が多い。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけにて問いかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	介助の方が多くなり、ほとんど職員が決めている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日々の会話等をし、雰囲気作りをしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人をよく観察し表情などからよみとれるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修等で学びいかにせるよう努めている。	○	○	○	人権や尊厳について学ぶ研修を年1回は行っており、研修内容は職員全員で共有している。調査当日も利用者との視線を合わせ、ゆっくりと声かけができていた。利用者の個性を理解し、行動を予測しながらさりげない支援に努めている。職員が居室に入出入りする時は、利用者と一緒にいるか不在の時も必ず声をかけて入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	努めているが利用者同士対面しており、他者に暴言がでるとやむおえない事がある。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴、清拭時にはタオルをトイレ時にはカーテン等で配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ロックする等入室については配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修等で学びいかにせるよう努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る事のお手伝いとして頂いている。	/	/	/	食事の際に利用者同士の仲が心配な時は、職員が間に入り話をしたり席順を変更するなど配慮している。また利用者の輪の中にはいるが、一緒に何かを行うことができない利用者もいるため、職員が声かけをし孤独にならないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	大切さの理解をはかる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルがあった場合は、職員が間に入るようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	何かあればケアカンで話をして解決に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族様との話し合いにて確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握できていない場合もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	特定の利用者には、時々知人の面会があるが、出かける事は出来ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	誰が来てもいいようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	人数が少ない事と利用者の重度化が進み難しくなっている。	/	△	△	「買い物を2か月に1回オズメッセや道の駅に行けるよう企画は行っているが、実施できないことも多い。地区行事には参加しているが、散歩など利用者が希望した時に一緒に外出等することが現状では難しい。」と管理者は言っているが、四季の企画として花見や初詣などには行っているため、今後重度の利用者も外出できるよう機会を増やすなどの取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ボランティアの来所はあるが、外出は出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	出来るだけ行事に参加して頂くようにしているが、難しくなっている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	地域の方の協力は得られていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	臨機応変に出来ている。	/	/	/	食器拭き、洗濯物畳み等利用者にはできることをしてもらっており、職員は常に寄り添い見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	臨機応変に出来ている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はして頂くようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その時に声かけしている。	/	/	/	ニンジンやジャガイモの皮むき、後片付けや食事開始の挨拶など自分の出番はこと利用者が理解し行っている。入居時はできていたが、徐々にできなくなる利用者もいるため、日々気にかけてながら支援している。管理者は利用者の負担を心配していたが、いざ利用者に声かけを行うと嬉しそうに取り組んでおり、自分が必要とされていると生きがいに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お手伝いや行事などをし、出番を作ろうと取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人よりどのようにしたいかなどの把握が来ていると思う。	/	/	/	食後の衣類の汚れがある場合は、歯磨きを終えた後にさりげなく誘導し着替えを行ったり、食事中に気がついた場合もプライドに配慮しカバーしている。入居が長くなると衣服も古くなり着れるものも少なくなるので、家族と相談し職員が利用者の好みを考え購入することもある。重度な状態であっても、3か月に1回理・美容師の訪問により髪をカットしてもらうなどの支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個々に合わせた服装を選んでいる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員や家族と話して考えている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	着替えをする際は、その人に合ったものにしてている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服が汚れていたらかえている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	ヘアカットに来てもらっている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎朝モーニングケアを行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	研修や勉強会で大切さを理解している。	/	/	/	2つのユニットで交代で献立を作成している。献立作成は献立委員が中心となり、誕生会や祝い事などは利用者の希望に沿った内容となっている。食材は主に配達され買い物に出かけることは少ない。利用者の茶碗やはし、湯飲みは職員からの誕生日プレゼントを使用しており、一人ひとりが違った色やデザインで自分の物とわかるように工夫されている。湯飲みは取っ手が大きく軽い物を使用されている方もおり「これが飲みやすいんよ」と話されていた。食事形態も利用者に合わせて、普通食や刻み食、ミキサー食など臨機応変に対応している。居室のベッドで座位になり、優しく声をかけながらゆったりとした雰囲気の中で食事介助を受けたり、皿に残っているおかずをさりげなく位置を変え食べやすい位置に直すなど配慮し、利用者がより食事に興味をもち楽しんでもらえるよう支援している。職員は利用者と一緒に食事はせず、見守りや食事介助に集中している。献立は職員がバランスの良いものを考えているが、栄養士等には相談していないので、今後食事のバランスなどについて、法人の栄養士等にアドバイスを求めることなどが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	後片付け(食器拭き)を手伝ってもらっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自分の役割としている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	行っていない。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感を感じさせる旬の食材を使っている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	状態を把握し、ミキサー加減に気をつけ彩り良くしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族にもってきてもらおうとしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	見守りは出来ているが、食事介助が増えて一緒に食事は出来ていない。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声かけをしながら介助している。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1人1人記録にて観察している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	声かけを行いながら、水分を摂って頂いている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	バランス等は考えて話すが栄養士のアドバイスはない。	/	/	×			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	栄養士のアドバイスを受けていない。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。	/	/	/	食後は利用者が順番に個々に合わせた歯ブラシを使用し、上手に歯を磨いている。自分一人では歯磨きが困難な利用者には、職員が洗面所まで誘導しマウスウォッシュでうがいをするなど支援している。週2回は消毒液でコップと歯ブラシを消毒し、義歯は洗浄液に浸すなど清潔を保持している。異常があった場合は、歯科医の往診を受けることができるよう体制が整っているが、日頃の口腔ケアに物足りなさを感じるため、今後は歯科衛生士の協力を得るなど万全を期して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の入り具合など口腔ケアを通して確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	研修等で学び、支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週2回ポリドントをしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎回食後の口腔ケア、ポリドントを使用している。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	その都度、往診などを活用して対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強関係や研修で学んでいる。	/	/	/	日中も夜間もトイレでの排泄ができるよう利用者一人ひとりに合った支援に努めている。食事前後はトイレが混雑することがあるが、利用者個々がお互いを配慮し順番を守っている姿など、相手を思いやる場面が見られる。布のパンツの利用者が多く、紙パンツもパットを上手に使用することでトイレで排泄できるよう工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会等、理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録に残し把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その時になって行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	定期的にトイレ誘導をして取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	出来るだけ早めに声かけをするように心がけている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	時間帯の使用品等の話し合いは行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の状態に応じて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事形態変更や運動を行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	職員の人数不足もあり、回数や時間を役員が決めている。	◎	/	○	家庭用のユニットバスを使用しており、出入口が狭いためドアをはずしナイロンのカーテンを使用している。手すりを設置し、入浴用のシャワーチェアやシャワーキャリーを使用するなど、安全に配慮しながら入浴支援を行っている。利用者全員が週2回入浴できるよう、1日2、3人のペースでの入浴支援に取り組んでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を入れている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来る事は、声かけにて行ってもらう。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	安全に入って頂けるように声かけを行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定、健康状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	記録に残し把握している。	/	/	/	夜間なかなか寝付けない利用者は、共用のフロアで夜勤の職員と会話をしたり、暖かい飲み物を提供するなど入眠してもらうようにしており、なるべく睡眠導入剤に頼らない支援に取り組んでいる。就寝時間にかかわらず、利用者の入居前の就寝スタイルを尊重し、それぞれに応じた支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中フロアで過ごして頂いている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬は使用していない。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼食後自室にて休んで頂くようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	電話や手紙のやり取りは行っていない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	重度化により、出来る方も少なくなっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	自らかけると言った訴えもみられず、対応はしていない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙のやり取りはないが、面会時居室にて話をするよう工夫している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	面会に来てもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ているが所持は出来ない為、管理者が管理している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	お金の管理は職員がしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	状態の関係上、あまり買い物に行けていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の管理は難しく、金庫を使用している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	あまり話し合えていないと思う。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣い帳に記入し、毎月家族に送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	行えている事と行えていない事がある。	◎	/	○	家族との外食を希望される利用者には、家族に依頼し一緒に外食に行けるよう支援したり、3階と5階の利用者同士の交流を支援するため、エレベーターでユニット間の行き来がしやすいよう配慮している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にお花を飾っている。	◎	○	○	事業所がビルのため、入口がわかりにくいところもあるが、ユニットの出入口には木の椅子を置いたり、季節の花を飾るなど工夫している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	写真や壁画を飾る等、工夫している。	○	◎	◎	各ユニットで雰囲気は違うが、どちらも掃除が行き届き清潔感があふれ、不快な臭いは感じられない。壁にはホーム頼りの掲示や「私のアルバム」と題した利用者全員の手作りアルバム、季節感が感じられる飾りなどが設置されている。5階のユニットでは、天井が格子の天窗になり自然の光が入るなど工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝換気、掃除をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節がわかるように壁に貼ったり飾り付けを工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	共用空間で入居者同士声をかけているのをみかける。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	扉やカーテンを使い、見えなくしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンスや写真などを置いて工夫している。	○	/	○	居室の2人部屋はカーテンで仕切られ、プライバシーは保護されている。居室は利用者の状態に合わせ、いろいろなタイプのベッドが設置されている。家具も利用者個々が自由に配置している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	壁に矢印を書いてトイレの方向を示している。	/	/	○	共用のフロアは整理整頓され、トイレや浴室に行くための動線が確保されている。居室の出入口のソファは邪魔にならないよう配置され、ソファの下にレクリエーションの道具を置くなど、車いすでも移動に支障のないよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	出来るだけ不安になるような物を見える所に置かないようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	あまりみられない。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解出来ている。	◎	◎	○	職員は玄関の施錠の弊害について理解している。ユニットの出入口にはセンサーを設置し、来訪者がわかるよう工夫している。夜間のみユニットの出入口等は施錠しているが、昼間は鍵をかけず出入りは自由になっている。夜間面会時は、事前に電話連絡をもらい解錠している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を望む家族はいない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中、鍵はしていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	サマーにして把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録、業務日誌で残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	その都度、主治医や医療連携で相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけの主治医がいる。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族の希望を聞き、それによって対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	主治医の指示を仰ぎ、家族に相談している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	個別に話をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医、看護師と報告している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	往診、受診の際に関係づくりでいると思う。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	関係者とは話をして相談。状態報告を適宜行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医に連絡できる体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	少しいつもよりおかしいと思った。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	勉強会や業務日誌に薬が入っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	朝、昼、夕と個々の薬袋を用意し、名前を書いている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	前もって、副作用がどのようなものか話しあって服用している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態を記録に残し、本人に合った薬を頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時、家族の意向を聞き、その後状態変化がある場合その都度、相談している。	/	/	/	看取りについては、入居時に利用者や家族に説明し理解してもらっている。実際に看取りになった場合、法人の病院医師の診断後に家族に連絡し、説明同意を得てプランを作成するなど対応している。利用者や家族の意向を重視し、入院希望にも対応している。事業所と病院医師との連携は取れており、安心して看取りが行えるようになっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ケアカンファレンスで話しあっている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居者等に話をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医、医療連携に報告し連携をとっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時、職員が話を聞いている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルにある訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ニュースや医療機関等で入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政や他施設から情報を聞いている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時には、手洗い・うがいをし、玄関や洗面台に消毒液を置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族との関係性も良好である。				毎月の事業所新聞や担当職員からの手紙などを家族に送付することにより、事業所の運営面や行事の案内、利用者の状況を報告するなどしている。家族の意向などが気軽に聞けるよう配慮しており、面会時や電話などにより確認し、ケアプラン作成時の参考にしてている。管理者は年1回の家族会や敬老会などを実施し、家族から事業所運営に活かせるような様々な意見を聞くことができた満足している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	明るく雰囲気よく対応出来ていると思う。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	新聞に行事についての日程を載せたり、面会時に参加してもらう。	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	会議で話し合った内容を毎月郵送しており、状態変化があった場合に常に連絡している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時、家族に話をするように努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	接し方に気をつけ、対応していると思う。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	家族に電話連絡し、実際に来て頂く時もある。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年1回家族会を行っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアカンで話し合った個々の状態変化を家族に報告し理解して頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	その都度、電話連絡や面会に話しあっている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居前に話をしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去前に家族に話をし、支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	個別に電話や面会時に説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議で説明している。	/	○	/	地区行事に参加したり、夕涼み会に参加し交流を深めている。管理者が地区の清掃活動に参加するなど、地域との関係づくりに努めている。自治会には加入していないが、回覧板は回ってきているため、回覧板に事業所新聞を一緒に入れてもらうなどして広報に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	あまり参加できていないので今後、夏祭り等行事に参加する予定である。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	消防団の方等少しづつではあるが増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほとんどみられていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	ほとんどみられていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	今後、消防団の方と避難訓練を予定している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの保育所等の交流はある。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	運営推進会議にて利用の誘いがあるので今後利用できるように検討する。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回参加している。	○	/	◎	家族代表や自治会長、介護相談員、公民館長、小学校や保育園、地区自主防災部長や他のグループホームの関係者などの参加を得て運営推進会議を開催している。会議では外部評価のことをはじめ、事業所行事などの情報を報告し、それに対する意見交換の時間を設け、出された意見を集約し事業所運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	その都度報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告後、意見交換の時間を作っている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	毎回、参加して頂けるように工夫している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ホーム玄関前に置いてある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ホームに理念があり、いつでも見られるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	ホームに理念があり、いつでも見られるようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修日程を職員に伝え、参加を募っている。				代表者は職員の休みの希望や6か月に1回食事を開催し交流を深めるなど、ストレスを軽減するよう努めている。常日頃から話を聞き65歳以上になると夜勤を減らし、パート職員には日勤の回数を減らすなど対応している。法人内での異動で顔なじみの職員が多く、管理者をはじめ職員同士気軽に話せる環境にある。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	取り組んでいる。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修や勉強会に参加してもらっている。				職員は虐待についてよく勉強しているが、管理者は職員が自覚しないで使っている言葉などに気づくと注意している。利用者の話を途中で遮ったりしないよう心がけ、言葉遣いについても勉強会を行い、虐待につながらないかなど職員全員で考える機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	取り組んでいる。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会で行っている為、理解している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	研修、勉強会に参加している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修や勉強会に参加してもらっている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	話し合いにて、1人1人に応じた対応をしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望はなく、あればその都度話を行う。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	勉強会に参加しているが、もう一度見直しが必要。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現状についての相談はないが、その都度支援を行っていきたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携が取れている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	その時の対応は理解しているがマニュアルは作成していない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救命講習を定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ケアカンで検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日中・夜間も見守りを行い、防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	意見箱を用意している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば、その都度情報交換を行い対応をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に話を聞く事が多い。			◎	苦情箱を設置しているが苦情は入ってはいない。苦情ノートも置いてあるが記載はなかった。家族会等での聞き取りを行っているが、苦情としてではなく、何気ない会話から家族や利用者の気持ちを汲み取るようにしている。家族からの意見などで改善事項や要望事項として捉えたことは、職員間で話し合いを行うなど対応している。管理者は職員一人ひとりの意見や提案等を聞いており、出された内容は検討し運営に活かせるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情ノートや意見箱を作り、設置している。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書に記載したり、入居前に説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は2年に1回行っている。	/	/	/	運営推進会議は評価結果を参加者全員に確認してもらいたい機会であり、実際に家族や地域関係者が記入したアンケートがどのような形で記載されているのか結果を見てもらい、事業所内での支援に活かしていきたいと考えており、今後の具体的な取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	各自の評価をまとめる事で学習の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	取り組んでいる所と取り組めていない所がある。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議にて報告予定である。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議にて報告予定である。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを詰所に準備している。	/	/	/	日中想定 of 避難訓練を実施し、5階から布団を搬送用に使用して避難したり、利用者の避難が終了したら「避難済」の板を掲示するなど工夫している。参加してもらった自主防災組織の方や消防団員から意見をもらうなど、今後の参考にもなっている。家族には行事予定で合同訓練の連絡はしているが、参加までには至っていないので今後期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	自主避難訓練や消防立ち会いの避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	約年に1回は確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	今後、合同訓練の予定がある。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	今後、合同訓練の予定がある。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議以外はあまりない。	/	/	/	事業所の建物自体が来訪しにくく、見学希望の電話連絡があれば対応しているが、相談支援などはできていないので、事業所の広報や地域との連携強化など具体的な取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば話を聞いている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	研修を活動の場として提供したことがあった。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	以前は学生の受け入れがあった。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	あまり行えていない。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870700147
事業所名	グループホーム銀河
(ユニット名)	第二ユニット 5F
記入者(管理者)	
氏名	白石 正人
自己評価作成日	平成29年 9月 1日

<p>【事業所理念】 ①入居者、個々の残存能力を生かしその人らしい生活ができるように支援する。 ②入居者が自信と生き甲斐を持って生活出来るよう計画を立てる。 ③一人一人を尊重し楽しい共同生活を送れるよう家庭としての環境を整える。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 新たな地域との取り組みにチャレンジ中です。今年度より構成員の方々の理解を得て同意の元、運営推進会議を星城と銀河合同で開催している。地域コミュニティを広げ地域との連携を築いていきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 ビルの3階と5階をグループホームに改装している。開設から17年経っているが、整理整頓が行き届き清潔感が漂う事業所である。共用スペースの使い方を工夫し、職員と利用者が共同し日常生活を送っている。管理者と職員の関係性がとてもよく信頼関係をしっかりさせ、同じ目標を持って利用者の支援に取り組んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時や普段の会話から本人の希望や意向を伺いケアカンにて職員全員が把握出来るようにしている。	◎	/	◎	利用者の思いや希望を日常生活の中で聞き出している。外出希望や買い物と一緒にいきたいという希望を、家族やボランティア等の協力を得ながら叶えている。買い物支援についてもケアプランに盛り込んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの暮らし方や好きな事や本人の癖等を家族から聞き、表情やしぐさ等で把握に努めケアカンにて職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会者や家族への電話等でお聞きし把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン満足度チェックシート等を活用して記録を整備している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	限られた環境の中で出来るだけ希望や意向に沿う事が出来る様に本人や家族と話し合いながら本人の思いに近づけるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所される迄の生活の様子を本人・家族・身内・知人からお聞きしたり、家族希望により入所迄のサービス利用記録を提出して頂いている方もある。その情報を基にケアカンにて職員全員が把握出来る様にしている。	/	/	◎	在宅時の暮らし方を、入居時に家族や介護支援専門員等から聞き取っている。短期記憶障害があったり、入居直後で聞き取りが難しい利用者もいるため、日頃の利用者の言葉を傾聴するなどし把握するほか、家族の面会時には生活リズムを聞くことなどに努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人・家族・近親者から今までの生活状況や職業をお聞きして現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人・近親者から伺った本人のこれまでの暮らしを基に、現在の安心感や不安感を本人の話や行動から見出している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	入所される迄の本人の歩んでこられた環境を知り、本人の不安定になる要因をケアカンで探り不安の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や経過観察等の情報を共有し把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人・家族・かかりつけの病院・今まで受けておられたサービス関係者から情報を得て入所後も本人と関わりが保てる様にしている。	/	/	◎	介護支援専門員を中心としてアセスメントを行っている。利用者毎の担当職員を決め情報収集を行い、本人の気持ちや家族の意向も確認している。アセスメントシートには医療や食事、排泄、入浴、整容等の調査項目があり、利用者のことがよくわかるようになっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	ケアカンファレンス会議等で検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアカンファレンス会議等で検討している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	PDCAサイクルを繰り返しているが、本当の意味での意向等が反映されているが疑問点がある。	/	/	/	ケアカンファレンスでの話し合いを行っているが、利用者の真のニーズを汲みとることができているのか疑問に思うことがあると管理者は述べている。ICF(国際生活機能分類)を元にアセスメントを行い、課題の優先順位を決定している。家族の意向は要介護認定更新時に直接もしくは電話で確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	PDCAサイクルを実施しながら、課題や日々のケアの在り方について反映している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の利用者の方に対して、慣れ親しんだ暮らし方の内容になっていない場合がある。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との外出や毎月の笑いヨガを地域の方の協力で実施しており介護計画の1つとしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	3ヶ月毎に見直しを行い毎月のケアカン経過状況を話し合っている。	/	/	◎	介護計画で立案された目標とサービス内容を経過記録に印刷し、記録する際に振り返りで確認できるように工夫されている。介護計画の日課票に沿った生活支援が行われている。月に1回ケアカンファレンスを実施し変更点等がないか確認している。職員の気づきなどを記録し目標に添った記入方法にしており、日中と夜間の利用者の言葉や表情、支援内容なども記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月のモニタリングに基づき担当者が経過状況を記録し、毎月のケアカンで状況を確認して日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護計画に沿った介護記録を本人の言葉や行動の様子を交えながら記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護計画の支援をどの様な働きかけ実践できたかを毎日記録していきケアカンで工夫やアイデアを出し合っている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月毎に見直しを行い毎月のケアカンで経過状況を話し合っている。	/	/	◎	長期目標を1年、短期目標を6か月で設定し、モニタリング及び評価を毎月実施している。法人内で見直しを6か月にするよう現在統一中である。モニタリング表はサービス内容の評価を3段階で行い、達成度や本人・家族満足度、特記事項が記載できるようになっている。状態に変化がない場合でも、各担当者が月に1回評価しケアカンファレンスで報告を行い、状況の変化があればその都度見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを毎月行い、ケアカンで現状を確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の急激な変化や転倒が続く時には緊急ケアカンを開催し、可能ならば家族にも参加して頂いてその時に応じた計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	介護事故が発生した時は、直ちにケアカンを開催している。	/	/	◎	月1回ケアカンファレンスを行っている。勤務中の職員を中心に家族の都合が合えば参加していただくこともある。また、市や県に報告するような事故があった場合、3日以内に事業所内で会議を行い対策を考えており、結果を全職員に回覧し周知徹底している。回覧は、職員が確認したことが確実に分かるように日付けと押印を行っている。参加できない職員には、管理者が会議の内容を説明し、伝わっているかどうかは常時確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ケアカンファレンス会議等で職員の意見交換は出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	事前に会議の日程を調整し対応している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をして全職員が周知できるようにしている。尚、急ぎの件に関しては、口頭で周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	業務連絡ノートにて共有出来ている。緊急連絡網も作成している。	/	/	◎	職員は、日誌や申し送りノート、ケアプラン、ヒヤリハット、研修会記録、防災報告書などを閲覧し、確認した日付の記入と押印を行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護業務日誌・業務連絡ノート・申し送りノートにて情報伝達が出来ている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	職員不足により外出等の希望があるが時々しか出来ていない。	/	/	/	買い物の希望等は、笑いヨガでも来てもらっているボランティアなどにも協力していただいている。日々の生活では衣類やおやつの種類を選んでもらうようにはしているが、「どれもおいしいよ。全部おいしそう。」と言われることが多く、職員が好みを考えて選ぶこともある。毎朝新聞を読む利用者がおられ、地元のニュースを話題にして話が弾むこともある。御詠歌と一緒に言うと穏やかになる利用者もおり、家族などから趣味を聞き出し、利用者の笑顔や喜びを引き出す支援を行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	好みの普段着やパジャマを着る事が出来る様に自分で選んで着て頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	入浴準備の際等に、服を選んで頂く自己決定支援を実施している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	夕食後、フロアでテレビや話をして過ごし自分で決めた思い思いの時間に就寝出来る様に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	寄り添い穏やかな雰囲気ですべて出来ている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	意思疎通が困難な場合でも、仕草や表情等をキャッチ出来ているが、本人の意向に沿った暮らし方の支援は出来ない時もある。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会を実施し尊厳保持等の大切さを学び実践につなげている。	○	○	○	人権や尊厳について学ぶ研修を年1回は行っており、研修内容は職員全員で共有している。調査当日も利用者との視線をあわせ、ゆっくりと声かけができていた。利用者の個性を理解し、行動を予測しながらさりげない支援に努めている。職員が居室に入出入りする時は、利用者と一緒にいるか不在の時も必ず声をかけて入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ほぼできているが、声掛け等に不適切な場合もある。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	同性介助を出来るだけ行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際はノックをして本人の許可を得ている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	会社のマニュアルがあり理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	寄り添いお互いに感謝し合う関係性が出来ている。	/	/	/	食事の際に利用者同士の仲が心配な時は、職員が間に入り話をしたり席順を変更するなど配慮している。また利用者の輪の中にはいるが、一緒に何かを行うことができない利用者もいるため、職員が声かけをし孤独にならないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	大切さは理解は出来ているが、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていく支援はできていない時もある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る支援は出来ている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに発展しそうな時は職員が早めに間に入っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	把握できていない場合もある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握できていない場合もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	知人や友人等に会いに行ったり、なじみの場所に出かけていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでも気軽に訪れられる環境を整えている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出企画を定期的に企画しているが毎日の戸外への支援は出来ていない。	△	△	△	「買い物」を2か月に1回オズメッセや道の駅に行けるよう企画は行っているが、実施できないことも多い。地区行事には参加しているが、散歩など利用者が希望した時に一緒に外出等することが現状では難しい。」と管理者は言っているが、四季の企画として花見や初詣などには行っているため、今後重度の利用者も外出できるよう機会を増やすなどの取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地元の夏祭り等への参加を地域の人に声掛けて頂いているので参加出来るように支援していく。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	受診等には、戸外に出ることもあるがなかなか実践できていない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様の協力も得ながら外出支援が出来ている入居者様もおられる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	施設外へのBPSD等に関する勉強会に参加し理解を深めている。	/	/	/	食器拭き、洗濯物畳み等利用者にはできることをしてもらっており、職員は常に寄り添い見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	入居者様の身体面機能低下の特徴を把握し維持、向上に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	入居者様の残存能力を把握し、「できること、できそうなこと」を見守ったり、一緒に行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居者様の生活歴、習慣、希望等の把握に努めている。	/	/	/	ニンジンやジャガイモの皮むき、後片付けや食事開始の挨拶など自分の出番はここと利用者が理解し行っている。入居時はできていたが、徐々にできなくなる利用者もいるため、日々気にかけてながら支援している。管理者は利用者の負担を心配していたが、いざ利用者に声かけを行うと嬉しそうに取り組んでおり、自分が必要とされていると生きがいに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域との取り組みが少ない為、余り支援出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。				食後の衣類の汚れがある場合は、歯磨きを終えた後にさりげなく誘導し着替えを行ったり、食事中に気がついた場合もプライドに配慮しカバーしている。入居が長くなると衣服も古くなり着れるものも少なくなるので、家族と相談し職員が利用者の好みを考え購入することもある。重度な状態であっても、3か月に1回理・美容師の訪問により髪をカットしてもらうなどの支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援出来ている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。				2つのユニットで交代で献立を作成している。献立作成は献立委員が中心となり、誕生会や祝い事などは利用者の希望に沿った内容となっている。食材は主に配達され買い物に出かけることは少ない。利用者の茶碗やはし、湯飲みは職員からの誕生日プレゼントを使用しており、一人ひとりが違った色やデザインで自分の物とわかるように工夫されている。湯飲みは取っ手が大きく軽い物を使用されている方もおり「これが飲みやすいんよ」と話されていた。食事形態も利用者に合わせて、普通食や刻み食、ミキサー食など臨機応変に対応している。居室のベッドで座位になり、優しく声をかけながらゆったりとした雰囲気ですぐに食事介助を受けたり、皿に残っているおかずをさりげなく位置を変え食べやすい位置に直すなど配慮し、利用者がより食事に興味をもち楽しんでもらえるよう支援している。職員は利用者と一緒に食事はせず、見守りや食事介助に集中している。献立は職員がバランスの良いものを考えているが、栄養士等には相談していないので、今後食事のバランスなどについて、法人の栄養士等にアドバイスを求めることなどが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物や調理、後片付け等、利用者とともにやっているが毎日とは出来ていない。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れ支援できている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食卓を一緒に囲んで食事は現在出来ていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態であっても、雰囲気づくりに配慮している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるように支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、低栄養や脱水にならないよう支援している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士の指導を受けている。			×			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い管理に努めている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの、重要性を理解している。	/	/	/	食後は利用者が順番に個々に合わせた歯ブラシを使用し、上手に歯を磨いている。自分一人では歯磨きが困難な利用者には、職員が洗面所まで誘導しマウスウォッシュでうがいをするなど支援している。週2回は消毒液でコップと歯ブラシを消毒し、義歯は洗浄液に浸すなど清潔を保持している。異常があった場合は、歯科医の往診を受けることができるよう体制が整っているが、日頃の口腔ケアに物足りなさを感じるため、今後は歯科衛生士の協力を得るなど万全を期して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後に義歯の手入れを適切に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者の力を引き出しながら、口腔の清潔を日常的に支援している。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの支援をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解出来ている。	/	/	/	日中も夜間もトイレでの排泄ができるよう利用者一人ひとりに合った支援に努めている。食事前後はトイレが混雑することがあるが、利用者個々がお互いを配慮し順番を守っている姿など、相手を思いやる場面が見られる。布のパンツの利用者が多く、紙パンツもパットを上手に使用することでトイレで排泄できるよう工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解出来ている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便・排尿チェック表等を利用し排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援をしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排便・排尿チェック表等を利用し排泄パターンを把握し対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	/	○	家庭用のユニットバスを使用しており、出入口が狭いためドアをはずしナイロンのカーテンを使用している。手すりを設置し、入浴用のシャワーチェアやシャワーキャリーを使用するなど、安全に配慮しながら入浴支援を行っている。利用者全員が週2回入浴できるよう、1日2、3人のペースでの入浴支援に取り組んでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間帯や声掛けする人員を交代する等の工夫を実施している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、バイタル測定、入浴後には水分摂取等の支援をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	/	/	/	夜間なかなか寝付けない利用者は、共用のフロアで夜勤の職員と会話をしたり、暖かい飲み物を提供するなど入眠してもらうようにしており、なるべく睡眠導入剤に頼らない支援に取り組んでいる。就寝時間にかかわらず、利用者の入居前の就寝スタイルを尊重し、それぞれに応じた支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	薬の影響や活動等の頻度についてモニタリングをしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に薬に頼ることは、虐待行為になるので注意深く状態観察を実施している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の支援は出来ているが、今年の8月より3ヶ月ごとに手紙を書いて郵送するようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は、本人様に見て頂き感想を家族様に伝えている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をして頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ているが所持は出来ない為、管理者が管理している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的には出来ていないが、企画時には参加して頂き対応している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物企画等にて対応している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持金は管理者が管理している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と話し合って支援出来ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応し支援やサービスに取り組んでいる。	◎	/	○	家族との外食を希望される利用者には、家族に依頼し一緒に外食に行けるよう支援したり、3階と5階の利用者同士の交流を支援するため、エレベーターでユニット間の行き来がしやすいよう配慮している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるようにしている。	◎	○	○	事業所がビルのため、入口がわかりにくいところもあるが、ユニットの出入口には木の椅子を置いたり、季節の花を飾るなど工夫している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で工夫できている。	○	◎	◎	各ユニットで雰囲気は違うが、どちらも掃除が行き届き清潔感があふれ、不快な臭いは感じられない。壁にはホーム頼りの掲示や「私のアルバム」と題した利用者全員の手作りアルバム、季節感が感じられる飾りなどが設置されている。5階のユニットでは、天井が格子の天窗になり自然の光が入るなど工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、独りになれる居場所の工夫をしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	/	○	居室の2人部屋はカーテンで仕切られ、プライバシーは保護されている。居室は利用者の状態に合わせ、いろいろなタイプのベッドが設置されている。家具も利用者個々が自由に配置している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者の「できること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	/	/	○	共用のフロアは整理整頓され、トイレや浴室に行くための動線が確保されている。居室の出入口のソファは邪魔にならないよう配置され、ソファの下にレクリエーションの道具を置くなど、車いすでも移動に支障のないよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスをする工夫をしている。	○	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	趣味の品や思いでの品等を居室に置いて対応している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は玄関の鍵はかけていないが、夜間帯は玄関の鍵を施錠している。	◎	◎	○	職員は玄関の施錠の弊害について理解している。ユニットの出入口にはセンサーを設置し、来訪者がわかるよう工夫している。夜間のみユニットの出入口等は施錠しているが、昼間は鍵をかけず出入りは自由になっている。夜間面会時は、事前に電話連絡をもらい解錠している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医療連携体制が確立出来ている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院された入居者がおられたが特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者との情報交換や相談に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常のかかわりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	看取りについては、入居時に利用者や家族に説明し理解してもらっている。実際に看取りになった場合、法人の病院医師の診断後に家族に連絡し、説明同意を得てプランを作成するなど対応している。利用者や家族の意向を重視し、入院希望にも対応している。事業所と病院医師との連携は取れており、安心して看取りが行えるようになっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等への心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様と常にコミュニケーションを図り一緒に本人を支えていく支援ができています。				毎月の事業所新聞や担当職員からの手紙などを家族に送付することにより、事業所の運営面や行事の案内、利用者の状況を報告するなどしている。家族の意向などが気軽に聞けるよう配慮しており、面会時や電話などにより確認し、ケアプラン作成時の参考にしてている。管理者は年1回の家族会や敬老会などを実施し、家族から事業所運営に活かせるような様々な意見を聞くことができた満足している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会や誕生日会等にも参加して頂いている。	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話や新聞等で本人の情報を伝える支援を実施している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会等での交流は出来ている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明しケアプランに反映している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	声かけや定期的な連絡等を行っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域との連携があまりとれていないが、今年度より地域の方々との交流を増やしている。	/	○	/	地区行事に参加したり、夕涼み会に参加し交流を深めている。管理者が地区の清掃活動に参加するなど、地域との関係づくりに努めている。自治会には加入していないが、回覧板は回ってきているため、回覧板に事業所新聞を一緒に入れてもらうなどして広報に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	今後の活動として、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	増えている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	気軽には立ち寄り遊びは出来ていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	時々できている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	大洲市内のボランティアの協力も得ながら月一回の笑いヨガを実施している	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	現在把握している段階である。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	現在関係性を深めている段階である。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、地域の人等の参加がある	○	/	◎	家族代表や自治会長、介護相談員、公民館長、小学校や保育園、地区自主防災部長や他のグループホームの関係者などの参加を得て運営推進会議を開催している。会議では外部評価のことをはじめ、事業所行事などの情報を報告し、それに対する意見交換の時間を設け、出された意見を集約し事業所運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	今年度より地元の自主防災組織の方に参加して頂いている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議の議事録を公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所内に理念を掲示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	代表者は職員の休みの希望や6か月に1回食事を開催し交流を深めるなど、ストレスを軽減するよう努めている。常日頃から話を聞き65歳以上になると夜勤を減らし、パート職員には日勤の回数を減らすなど対応している。法人内での異動で顔なじみの職員が多く、管理者をはじめ職員同士気軽に話せる環境にある。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会等を開催して理解に努めている。	/	/	/	職員は虐待についてよく勉強しているが、管理者は職員が自覚しないで使っている言葉などに気づくと注意している。利用者の話を途中で遮ったりしないよう心がけ、言葉遣いについても勉強会を行い、虐待につながらないかなど職員全員で考える機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会等を開催して理解に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会等を開催して理解に努めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望はない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会等を開催して理解に努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談をされた時には、支援を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携が取れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	介護事故等の発生時には、連絡体制もしっかりできており、事故発生後の対応もできている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	月一度のカンファレンスにて、ヒヤリハット等の事例を挙げ対応策を職員全員で検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアカンファレンス会議等で検討し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成している。苦情が発生した場合は、何故苦情が発生したか・対応策を話し合いを行い、苦情防止に努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置し苦情を伝えらる手段を整えている。	/	/	◎	苦情箱を設置しているが苦情は入ってはいない。苦情ノートも置いてあるが記載はなかった。家族会等での聞き取りを行っているが、苦情としてではなく、何気ない会話から家族や利用者の気持ちを汲み取るようにしている。家族からの意見などで改善事項や要望事項として捉えたことは、職員間で話し合いを行うなど対応している。管理者は職員一人ひとりの意見や提案等を聞いており、出された内容は検討し運営に活かせるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置し苦情を伝えらる手段を整えている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見箱を設置し苦情を伝えらる手段を整えている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	/	/	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議は評価結果を参加者全員に確認してもらいたい機会であり、実際に家族や地域関係者が記入したアンケートがどのような形で記載されているのか結果を見てもらい、事業所内での支援に活かしていきたいと考えており、今後の具体的な取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一の機会として活かしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価(自己・外部・家族)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、水害、原子力災害等)	/	/	/	日中想定 of 避難訓練を実施し、5階から布団を搬送用に使用して避難したり、利用者の避難が終了したら「避難済」の板を掲示するなど工夫している。参加してもらった自主防災組織の方や消防団員から意見をもらうなど、今後の参考にもなっている。家族には行事予定で合同訓練の連絡はしているが、参加までには至っていないので今後期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	取り組めるように努力している。	/	/	/	事業所の建物自体が来訪しにくく、見学希望の電話連絡があれば対応しているが、相談支援などはできていないので、事業所の広報や地域との連携強化など具体的な取り組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	取り組めるように努力している。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所を解放し、取り組めるように努力している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	取り組めるように努力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	取り組めるように努力している。	/	/	△	